

大火復興から始まる市民主導のまちづくり

～長野県飯田市～

東海村 建設水道部 都市政策課 花田 美佐

平成25年7月19日、長野県飯田市で行われた、公益財団法人都市計画協会主催の平成25年度(第33回)まちづくり拝見研修会に参加しました。



東和町ラウンドアバウト(新規整備 視認性重視の構造)

■ 中心市街地再生への取り組み

飯田市の中心市街地は、昭和22年に発生した大火で大半を焼失しました。復興の際、住民の協力により裏界線と呼ばれる裏通りが生み出されました。また防火帯にりんごが植樹され地元の中学生による管理が現在まで続く等、市民が積極的に関わるまちづくりが行われています。

飯田市では、中心市街地の再開発事業を行政が行うのではなく、市民資本の第三セクター(株飯田まちづくりカンパニー)が行っています。再開発事業のための「まちづくり会社」として、地元有志の出資により設立されたもので、現在は中心市街地活性化をプロデュースするTMOとなっています。市街地の再開発や住宅の販売、店舗の賃貸等の管理運営、既存の建物を利活用した物販飲食、イベントの企画運営、福祉サービス事業、NPOの活動支援等他にも様々な事業を行っています。これにより、居住人口の増加や都市機能の再生等一定の活性化成果があがっています。

■ 再生可能エネルギーの普及促進の取り組み

飯田市は、1996年に「環境文化都市」を目指す都市像として掲げ、様々な環境問題に取り組んできています。

飯田市の環境事業においても、事業主体として、NPOを母体とした民間企業が設立されました。この企業は、市民出資を活かした公民協働の太陽光発電の普及や省エネ機器導入コンサルティングなどの事業を行っています。

グループ会社で独自のファンド「おひさまファンド」を運営しており、市民や企業からの出資を募り、太陽光発電と省エネ事業に投資する仕組みとしています。

■ 現地調査 ラウンドアバウト

飯田市では、平成22年度から既存のラウンドアバウト交差点において社会実験を実施した結果、今後実施する交差点の整備・改良にあたっては、可能な場合はラウンドアバウト型の交差点を採用することとしました。

検討と改良を行った既存の吾妻町と、5枝の交差点をラウンドアバウトとして整備しました。

■ 現地調査 りんご並木周辺

りんご並木周辺は、市街地再開発等の(株飯田まちづくりカンパニー)が事業を行っている場所が多くあります。

大火の中で焼け残った数箇所の土蔵は、歴史的建造物として保存活用が図られており、コミュニティ拠点として、ギャラリーや店舗スペース等になっています。



トップヒルズ本町(再開発事業地)



土蔵を利用した事務所

りんご並木のエコハウスは、環境モデル都市飯田における市民の環境活動の拠点として平成21年度に整備されたもので、建物全体が、飯田市の気候等の特性を踏まえた環境共生型モデル住宅となっています。

■ 終わりに

行政が誘導した側面もありつつも、まちづくり会社を有志が設立した、または、NPOをもとに会社を設立したという経緯に、市民の自主性が窺えるように思いました。

そして、開発の主体が会社だからこそ、市民がまちづくりに積極的に参加でき、市民の声が活かされたのではないかと思います。ファンドの運営などは、事業の主体が会社だからこそできることであり、出資を募ることにより、従来の補助金などの方法よりも負担を減らし、かつ効果的に普及を図れる画期的な方法だと思います。

飯田市では、様々な取り組みを市民が行っており、行政はその市民の取り組みのバックアップをするという理想的な関係を築いているといえ、今後の住民と行政との協働のあり方として大変参考になりました。